

第3学年 国語科学習指導案

日 時 平成16年11月26日(金) 5校時
対 象 盛岡市立城西中学校3年4組
男子19名 女子19名 計38名
指導者 高橋 洋之

- 1 単元名 四 状況に生きる
教材名 「二つの悲しみ」(光村図書 国語3)

- 2 単元について
(1) 教材について

本単元は、「人間の生きる姿をとらえよう」「故郷」「二つの悲しみ」「お辞儀するひと」
「視野を広げ、考えを深めよう」「自分の考えを訴えよう」の三つの教材で構成され、「状況の中で生きることを意味を考え、文章に書いたりスピーチしたりするなかで、考えを深める」ことを目標としている。

中学校三年生は、自我の目覚めとともに、不安定な心理状態に陥る時期でもある。また、さまざまな情報や価値観の中で進路選択という現実と直面し、自分を見失いそうになることもあるであろう。そのため、自分自身を取り巻く状況を見極め、その状況にいかにか立ち向かい、生きていくかを考える力が必要とされる。だからこそ、この時期に、状況と対峙し、状況との関わりを表現した作品に触れさせることは意義があると考えられる。

「二つの悲しみ」は、第二次世界大戦において戦地で負傷し、戦後は引揚援護局で人々に肉親の死を伝える仕事に携わった筆者の体験記である。戦後二十年、ベトナム戦争で日本はアメリカ軍への最大の補給拠点となった。繰り返される戦争による悲しみと喪失感。過去の戦争での体験を風化させてはならないという筆者の思いが表現され、今、わたしたちは「何ができるのか」「何をすべきか」を読者に問いかけている。

作品は、肉親の死を伝える仕事で対面した二人の様子を再現している。息子を亡くした紳士と、父を亡くした少女の悲しみが、詳細な人物描写や感情表現によって表され、境遇も立場も違う二人でありながらも悲しみは同じであることを効果的に伝えている。また、「どうなるのであろうか」「何を考えるべきであろうか」「何をすべきであろうか」といった問いかけ型の文末を多用することで、読者に、戦争についての様々な考えを巡らせることとなっている。

人物描写を丁寧に読み取ることで人物像を明らかにし、当時の状況について考え、筆者の思いを理解させたい。

- (2) 生徒について

生徒はこれまで、「麦わら帽子」「大人になれなかった弟たちに・・・」「少年の日の思い出」「ゼブラ」「字のないはがき」といった文学的文章を学習してきた。説明的文章に比べて比較的興味を持ちやすく、意欲的に取り組む様子が見られた。しかし、全体の粗筋は理解できるものの、詳細な描写や微妙な心の動きなどを読み取ることを苦手としている。

本学級の生徒は、国語学習において、基礎・基本の未定着な生徒が多い。特に、漢字・語句の意味などの言語事項、文章に即して内容を読み取る力、自分の考えを文章に表現する力を課題とする。また、理解力の高い生徒が少ないため、授業の中で互いに考えを発表しながら、深い読み取りに達するような授業形態は向かない。さらに一問一答型の質問での発言はあるが、自分の考えをまとめて発表することを苦手とする生徒が多い。

そこで、個々の作業時間を確保し、文章を表現に即して丁寧に読み取らせたい。また、書く活動により、じっくり「行間を読む」場面を設定したい。

(3) 指導について

教材の特徴と本学級の実態を踏まえて、次のことに重点を置きながら指導に当たりたい。

① 表現の特徴の丁寧な読み取り

本作品は、人物描写や人物の感情表現が豊富に描かれている。二人の人物像を明らかにするために、表現を丁寧に読み取らせたい。そのために、文章中の表現にチェックした後、それを付箋に書き入れ、プリントに貼付する作業を取り入れる。付箋を使用する理由は次のことによる。

- ・表現の特徴が明確になり、人物像を明らかにしやすい。
- ・周囲の友人の作業の様子がわかり、互いに学習しやすい。
- ・作業の状況を教師が把握しやすくなり、的確な支援ができる。

② 友人との確認

人物描写を指摘するのは、比較的取り組みやすい作業だが、個人差も大きい。作業が進まない生徒が周囲の友人の様子を参考にしながら作業ができるようにしたい。付箋を使用する理由は前記のとおりである。

③ 書く活動による読みの促進

本教材では、読みの促進のために「書くこと」を取り入れる。一つは、「わたし」の少女への心の中の声を書く場面、もう一つは、人物への手紙を書く場面である。前者の作業では、「わたし」と「少女」の人物像をともに押さえることが必要である。後者の作業は、人物への共感的理解を促すものとなる。なお、前者の作業は「字のないはがき」で、後者の作業は「大人になれなかった弟たちに・・・」で行っている。

④ 過去の作品との比べ読み

本作品の「紳士」「少女」は、表現は違ってもともに悲しみをこらえる描写が印象的である。戦争という背景で「泣くこと・涙」を象徴的に扱っている既習の作品「大人になれなかった弟たちに・・・」「字のないはがき」と読み比べることで、本作品への理解を深めたい。

3 教材の目標

(1) 「国語への関心・意欲・態度」に関する目標

- ・作品から人間や社会について考えを深め、自分の考えを文章に表そうとする。

(2) 「読む能力」に関する目標

- ・表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、人物像を明らかにすることができる。
(C-ウ)
- ・作品を読んで当時の人々を取り巻く状況について考え、自分の意見をもつことができる。
(C-エ)

(3) 「言語についての知識・理解・技能」に関する目標

- ・多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

4 指導計画と評価規準

	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
1	<ul style="list-style-type: none"> 全文通読 背景の確認 ○紳士の悲しみをとらえる。 	○紳士の描写を抜き出し、その悲しみを想像しようとしている。	○表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、紳士の人物像を明らかにしている。	○多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。
本時	<ul style="list-style-type: none"> ○少女の悲しみをとらえる。 ○少女に対する「わたし」心の中の声を想像して書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少女の描写を抜き出し、その悲しみを想像しようとしている。 ○「わたし」の心情をとらえ、少女に対する「わたし」の心の中の声を想像しようとしている。 	○表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、少女の人物像や「わたし」の心情を明らかにしている。	
3	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の主題を考える。 ・悲しみ以上の「何か」 ・比べ読み 「大人になれなかった弟たちに」 「字のないはがき」 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習内容と、他の作品を比べながら、主題を書こうとしている。 ○作品中の人物に向けての手紙を、自分の言葉を使って書こうとしている 	○作品を読んで当時の人々を取り巻く状況について考え、自分の意見をもっている。	

5 本時について

(1) 目標

表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、少女の人物像や「わたし」の心情を明らかにすることができる。

(2) 具体的評価規準

	A 十分満足	B 概ね満足	C 努力を要する生徒への手立て
読むこと	○表現の仕方や文章の特徴に注意しながら少女の様子を抜き出し、少女に対する「わたし」の心の中の声、主題と関連づけながら書いている。	○表現の仕方や文章の特徴に注意しながら少女の様子を抜き出し、少女に対する「わたし」の心の中の声を書いている。	<ul style="list-style-type: none"> ○抜き出す言葉を付箋に書き入れることで、机間指導や友人の助言をもとに不足を補う。 ○「書き出し」などが書かれてある補助プリントを参考にする。

(3) 展開

段階	学習内容	学習活動	教師の指導・留意点 ◆手立て
導入 5分	1 前時の想起 2 課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を確認する。 ・教師の話から本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の背景、人物の確認をする。
	3 課題解決の方法の予想	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するための方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を想起させる。
展開 43分	4 少女の悲しみの様子の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 ・音読を聞きながら、少女の様子がわかるところに傍線を引く。 ・音読後、チェックした言葉を付箋に書き入れ、プリントに貼付する。 ・周囲の友人と確認し、不足を補う。 ・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆机間指導 ◆机間指導 ◆付箋の様子を見ながら友人の助言を得る。 ・「肩で息を」「大切にしまい込んで」「下唇を血が出るようにかみしめて」「がっとうを開いて」など、意味や感情を確認する。
	5 わたしの様子の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたし」の様子がわかる表現の中で、特に「声」に関わる描写を見つけて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何か言おうと思い」「声をのんで」などに注意する。 ・「わたし」のせりふはほとんどないことに気づかせる。
	6 わたしの心情の表現	<ul style="list-style-type: none"> ・少女に対する「わたし」の心の中の声を想像して書く。 ・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の表現に即して想像させる。 ・付箋に書き込んだ言葉を最低一つは必ず使って書かせる。 ◆「書き出し」などが書かれてある補助プリントを使う。 ・自分の内容との相違を考えながら聞かせる。
終末 2分	7 本時のまとめと次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の話で次時の内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時のキーワード「悲しみ以上の何か」に注目させる。

紳士の様子

その後

瞬間

容姿等

「あなたの息子さんは、ニューギニアのホーランディヤで戦死されております。」



わたしの様子

少女の様子

瞬間

容姿等

・わたしは黙って

「声」に聞ける描写を
抜き出してみよう

・小学校二年生
・机から頭が見えるくらい
・やせた真つ黒な顔
・伸びたおかつば

「あなたのお父さんは、戦死しておりますのです。」

聞く以前

その後

